



さいくうあと通信

発行 明和町 斎宮跡・文化観光課
(明和町大字馬之上 945 番地)
電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133
E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

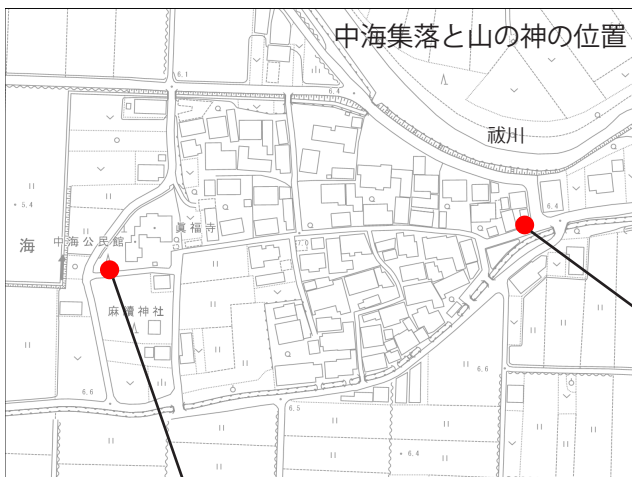
明和町の山の神

～中海の山の神とどんど焼き～

明和町内に 200 体以上あるといわれている山の神は今も大切に守られ、信仰され続けています。その山の神信仰のかたちの一つとも言えるのが山の神の場所で行われるどんど焼きです。どんど焼きとは新年に行われる一年の無病息災を祈願して飾り終えたシメナワを燃やすもので、全国的に見られます。どんど焼きが行われるのは神社やお寺が一般的ですが、中海などでは山の神のそばで行われます。



三重県の伊勢志摩にはシメナワを一年中飾る文化があり、年末になると新しいものに付け替えますが、中海では外した古いシメナワを山の神に持ち寄ります。そして年が明けた 1 月 7 日の朝 7 時ごろからどんど焼きを行います。



中海の集落は祓川の南岸に位置し、周囲には田園が広がっています。山の神は集落の東と西で対をなすように位置しており、東の山の神は集落の入口となる道のそばに 2 体、西の山の神は同じく集落の入口となる麻績神社と真福寺の間を通る道に祀られています。



東



西



どんど焼きのながれ



火をつける



どんど火で清める (東)

年が明けた7日、山の神に参加者が集まりシメナワを基壇から下ろし火をつけ、どんど焼きがはじまります。どんど火はケガレを清めるものとされていますが、東の山の神ではどんど火を藁わらの束にうつし、山の神を清めます。

どんど焼きでは一年の健康を祈願し、どんど火で角餅を焼き食べることがありますが、中海でも餅を焼きます。東の山の神ではどんど火が落ちていたら餅を置き、シメナワを少しずつ足しながら時間をかけて焼いていきます。餅が焼けると角を少しぎり山の神に供えます。



餅を焼く (東)



山の神に供える (東)

西の山の神では東とは異なりどんど焼きをはじめる前にシメナワの周りに餅を並べてから火をつけます。西では餅は焼くのではなく火と煙で炙あぶのみで、それを家に持ち帰りあらためて焼いて食べます。これは餅を焼くことよりもどんど火にあてることが重要であることを意味しています。そのため餅を食べられる状態になるまで焼く必要がなく、山の神に集められたシメナワを一気に燃やすため東よりも早くに終わります。



餅を並べる (西)

山の神とは



佐田の山の神

明和町の山の神は集落の入口となる道の傍らに碑が祀られています。一つの集落に二ヶ所以上祀られているのが主ですが、道路工事や集落の変化に伴いお寺や神社にまとめられている所も多くなっています。山の神は集落の入口に祀られていることから集落に結界をはり、厄などが集落に入らないようにしていると考えられています。山の神のスタイルは様々で、基壇に祀られているものや地面へ直に祀られているもの、石碑ではなく木を山の神としている集落もあります。山の神とその信仰は明和町に残る大切な文化遺産の一つです。